

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
152	新町地区の再開発整備要望に取り組みます。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	街路整備事業実施に伴う陳情・要望（単位：回）	0	3	1	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
	新町通り再生プロジェクトの開催（単位：回）	0	8	4	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	新町通事業計画関連委託業務発注（単位：件）	0	2	2	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	駅前通り商店街と一体となった整備により魅力ある住環境整備の観点から町民ニーズに合致し不可欠な事業である。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	期成会は存在するが、メインの街路事業は北海道主体であるため行政が主体的に実施すべきと考える。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	北海道が街路事業に着手するよう陳情・要望活動を継続していく為に最適な方法と考える。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	専門的知識のあるコンサルに委託することにより、より精度の高い構想計画を作成できるため費用対効果は高いと思われる。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	新町通りを整備することは、駅前通り商店街と一体となった魅力ある住環境整備することになり栗山町の玄関口という意味からも偏ったものではない。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	今までも期成会や町で陳情等を実施してきたが、今年度新たに「新町通り再生プロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトメンバーは期成会や町・会議所の他に金融機関や建築業者などの民間業者を加え新たな新町通りの基本構想を練り直す。
課題・問題点	沿線の大きな建物が無くなり補償費などの事業費は減になると予想されるが、事業が本格化した際本当に活性化した街並みが形成されるかが問題である。
改善策	街並みを形成するため、公営住宅や若者定住用住宅の建設やPFIの活用なども検討する。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	3. 改善を検討（事業内容） 新たな基本構想策定に向けた「新町通り再生プロジェクト」の議論を進め、道の事業採択に向けた戦略的かつ具体的な公共投資計画及び手法について検討を進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める 道の事業採択に向け、プロジェクトチームによる新たな基本構想の策定を計画通り進めること。
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
153	馬追橋の早期架換え要望と、錦地区の街並みづくりを検討します。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	馬追橋架換事業実施に伴う要望（単位：回）	1	1	1	1	0	1	0	1	0	基準値：H25
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	遊歩道の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	馬追橋架換事業の実施（単位：橋）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施 ※道実施事業
	事業進捗率（単位：％）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施 ※町単独事業の進捗
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	馬追橋の老朽化及び交通安全対策に係る架替、また、これと合せ幹線道路と遊歩道等を整備するものであり、本町の市街地形成等の観点から必要不可欠な事業である。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	馬追橋架替や幹線町道をはじめとした周辺環境整備であり、地域住民の参画も得ながら行政が主体的に推進すべきものである。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	現在は国や道への陳情・要望活動が中心であるが、町事業と一体的に推進していく必要があるため、当面は早期事業化に向けた活動を中心に展開していく。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	現時点では直接的な事業費は発生しておらず、人件費についても特に改善を要するものはない。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	本事業は、本町の玄関口にふさわしい魅力ある街なみづくりと地域活性化を目的としたものであり、公平性は担保されている。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	（前年度評価なし）
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	関係機関との定期的な情報交換等を通じ、計画通り事業推進を図ること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
154	南部公民館の利便向上に向けた、敷地内の整備を行います。	新規	平成27年度	平成30年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	道路及び出入口整備（単位：箇所）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	芝生整備（単位：㎡）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	基準値：未実施
	駐車場整備（単位：㎡）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	基準値：未実施
	調査設計発注（単位：件）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率（単位：％）	0	3	3	60	0	75	0	100	0	基準値：未実施
	地域との打合せ（単位：回）	0	2	3	1	0	1	0	1	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	地域のコミュニティの拠点である南部公民館周辺整備のため必要
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	地域の拠点である南部公民館周辺整備のため町での実施が最適
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	地域住民代表と整備内容を打合せし実施する
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	事業内容を精査し実施する
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	通気の拠点である南部公民館周辺整備のため公平性に欠けていない

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課 題 ・ 問 題 点	駐車場の増設・周辺町有地の有効活用
改 善 策	地域住民と綿密な打ち合わせを行い事業内容を決定する

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	南部地域の基盤整備と活性化を図るため、地域との協議に基づく南部公民館の敷地内整備に向け、計画通りに進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
155	継立中学校跡地の活用を含めた南部地域振興策を検討します。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	地域住民との懇談会の開催（単位：回）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※方針策定にあたっての意向把握等
	庁内検討会議の開催（単位：回）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※方針策定にあたっての協議等
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標		0	0	0	0	0	0	0	0	0	※今後、具体的な方針決定に基づき設定
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	南部地域の振興・発展を推進するうえで、街並みづくりや基盤整備の実施は必須であり、必要不可欠な事業であると判断する。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	地域振興に伴うまちづくり構想の方針策定であることから、行政が主体的に推進していくものである。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	地域の住民意向及び庁内での検討を踏まえたうえで、今後の方針を策定することとしている。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	今後の方針を策定していくうえでの必要経費を予定しており、最小限の人員と予算で実施していくこととしている。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	地域全体の利益及び町全体の活性化に繋がる事業であることから、公平性が図られていると判断する。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	（前年度評価なし）
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	継立中学校の施設を含めた跡地活用については、これまで地域住民との懇談を行ってきたところであるが、今後庁内での協議を進め、売却手法等具体的な方針を定め、次年度以降に準備等を進めていく。□ また、道道タ張長沼線の未開通区間早期開通のに向けた要望、町道南学田線延伸（由仁町との広域道路網）について由仁町と要望について検討を進めること
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	跡地活用の方針決定後、速やかに地域等への説明を行い、十分理解を得た上で事業推進を図ること。
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
156	農村環境改善センターの利便性向上に向けた周辺整備を行います。	新規	平成27年度	平成27年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	駐車場整備（単位：㎡）	0	2,000	2,025	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率（単位：％）	0	100	100	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	地域のコミュニティの拠点である農村環境改善センター駐車場の増設のため必要
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	地域の拠点である農村環境改善センター駐車場整備のため町での実施が最適
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	隣接する町有地と一部民有地を買収し、駐車場整備を実施
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	事業内容を精査し実施する
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	通気の拠点である農村環境改善センター駐車場整備のため公平性に欠けていない

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課題・問題点	－
改 善 策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	中部地区の基盤整備と活性化を図るため、農村環境改善センター駐車場増設に向け、計画通りに進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
157	国道234号線の整備要望と、角田地域振興策を検討します。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	工業団地の造成（単位：㎡）	0	0	0	36,500	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	310	0	0	0	基準値：未実施 ※幹線町道
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	320	0	基準値：未実施 ※枝線町道
	造成調査設計委託発注（単位：件）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	町道調査設計委託発注（単位：件）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率（単位：％）	0	20	4	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	第4工業団地の造成及び町道の整備を行い、企業誘致の推進と角田地域との一体感ある街並みの形成を図るため必要
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	工業団地の造成及び町道整備のため町での実施が最適
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	単独事業と社会資本整備総合交付金事業での実施
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	国道工事で発生する残土を盛土に利用しコスト削減を図る
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	工業団地の造成及び町道整備のため公平性に欠けてはいない

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	前年度評価なし
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	2. 改善を検討（事業費） 国の跨線橋撤去事業に併せ実施する新工業団地造成及び町道新設事業について、地権者等との協議を進め、財源の確保を図りながら進めること。
2 次 評 価	3. 改善を検討（事業内容） 地権者等との協議を進めるとともに、新工業団地造成については、既分譲団地の状況も考慮しながら、価格設定など検討すること。
外 部 評 価	
最 終 評 価	3. 改善を検討（事業内容） 新工業団地造成に関して、既分譲団地のほか、管内他地域の状況（価格等）も勘案しながら、効果的な分譲方法を検討すること。

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
158	栗山駅南側の機能性を高める道路・駐車場整備を行います。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	周辺用地の先行取得（単位：㎡）	6,348	6,348	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	栗山駅南側の周辺整備（単位：㎡）	0	0	0	0	0	100	0	0	0	基準値：未実施 ※道路整備
	栗山駅南側の周辺整備（単位：㎡）	0	0	0	0	0	1,200	0	0	0	基準値：未実施 ※駐車場整備
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率（単位：％）	0	47	0	0	0	100	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	J R栗山駅南側の機能性を高めるため、道路・公共駐車場を整備するもので、本町の市街地基盤形成を図る観点から必要不可欠な事業である。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	道路・公共駐車場の整備を行うものであり、行政が主体的に推進すべきものである。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	本年度は整備に必要となる民有地を先行取得したものであり、次年度より計画的に整備事業を展開していく。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	先行取得は土地開発基金により実施したが、次年度以降は、国や道の補助制度等も模索しながら事業推進を図っていく。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	本事業は、市街地基盤形成に係るJ R栗山駅南側の周辺整備であり、公平性は担保されている。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	（前年度評価なし）
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	3. 改善を検討（事業内容）
	道路・駐車場整備を計画通り推進するとともに、隣接町有地を含めた多目的スペースの整備など、より機能性の高い一体的な整備を検討すること。
2 次 評 価	3. 改善を検討（事業内容）
	魅力ある街なみづくりのため、当該整備用地周辺のほか、新町通りを含めた市街地全体的な視点での整備を検討すること。
外 部 評 価	
最 終 評 価	3. 改善を検討（事業内容）
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	経営企画課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
159	まちの将来像を見すえた栗山市街地の整備を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	広域道路網整備に向けた道要望の実施（単位：回）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	基準値：実績なし
	大通り街路整備の検討（単位：回）	0	0	0	0	0	1	0	1	0	基準値：実績なし ※庁内会議の開催
	字名改正、5丁目構想の検討（単位：回）	0	1	0	1	0	1	0	1	0	基準値：実績なし ※庁内会議の開催
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標		0	0	0	0	0	0	0	0	0	後期計画において設定
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。
	道路・街路整備については都市計画マスタープランに基づくものであり、町民ニーズ等にも合致している。字名改正及び5丁目構想については町民ニーズ等の把握を行いながら進める必要がある。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	都市計画においてきわめて重要な事業あるため行政が実施すべき。
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	現状は検討段階であるが、将来的に必要な基盤整備である。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	現状は検討段階であるため、直接的な事業費は発生しておらず、人件費についても特に改善を要するものはない。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	現状では検討段階であるため、受益者負担の判断が困難であるが、道路・街路整備については不特定多数が利用できるものと推測する。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	町民参加のもと市街地整備計画の策定を進めること、字名改正等について調査研究を引き続き進めるとともに関係する町民との協議の場設定に向けた諸準備を進めることとしているが、現時点においては実施に至っていない。
課題・問題点	これまでも実施方法について具体的な検討がされておらず、関連資料もまとめられていないことから、状況整理が必要となっている。
改善策	状況整理を進めるとともに、課内及び関係課所との協議を行い実施方法の検討を進める。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	内部協議により実施方法の検討を進め、町民参加のもと市街地整備計画の策定を進めること。字名改正等について住民生活への影響など調査研究を引き続き進めるとともに、関係する町民との協議の場設定に向けた諸準備を進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	072	景観づくりの推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
160	景観資源の保全・活用を図ります。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	景観審議会の開催（単位：回）	2	2	2	2	0	2	0	2	0	基準値：H25
	景観保全啓発活動の実施（単位：回）	4	2	2	2	0	2	0	2	0	基準値：H25
	景観フォトコンテストの開催（単位：回）	1	1	1	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	景観審議会への参加（単位：人）	20	20	17	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
	景観フォトコンテストへの参加（単位：枚）	60	60	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。
	前回のフォトコンテストの実施により栗山町の景観の啓蒙につながったため今後も効果が期待できる。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	条例や計画に基づくため行政が実施する。
有 効 性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。
	景観審議会は引き続き必要であるが、フォトコンテストに変わる景観事業があれば検討していく。 届出制度は有効ではあるが未だ認知度が低く感じる。
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	フォトコンテスト事業は前回初めてだったため非効率な部分もあったが、今回は前回の反省点を踏まえて効率的に行う。
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	偏りはなく公平である。

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	届出制度の周知徹底。
課題・問題点	届出制度の認知度が低く、無届工事が見受けられる。
改 善 策	足場がかかっている住宅に対して届出制度の案内をポスティングしていく。

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	景観資源の保全・活用を図るため、制度の周知徹底とフォトコンテストなどの景観事業を推進するなど、計画通りに進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
161	老朽化した公園施設の修繕・更新を行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	公園施設の改築・更新（単位：箇所）	1	21	5	16	0	11	0	1	0	基準値：H25
	公園施設の修繕（単位：箇所）	0	7	0	7	0	7	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	改築・更新進捗率（単位：％）	78	27	6	47	0	62	0	63	0	基準値：H25
	改築・更新進捗率（単位：％）	80	9	0	18	0	26	0	26	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	老朽化した公園施設を安全に利用できるよう必要である。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	都市公園のため、町での実施が妥当である
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	指定管理者、町内会等との打合せをし事業を実施する
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	事業内容を精査し、社会資本整備総合交付金事業で実施する
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	都市公園施設の為公平性は欠けていない

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課題・問題点	社会資本整備総合交付金事業の、要望額と交付額の差が大きく、計画の見直しが必要となる
改 善 策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	安全・安心で魅力的な公園づくりを推進するため、国交付金に応じた計画の見直しを図りながら、公園施設の計画的な修繕・更新を進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
162	御大師山周辺（栗山公園等）の計画的な改修・整備を進めます。	新規	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	散策路の修繕（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	順路看板の設置（単位：箇所）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	展望デッキの設置（単位：基）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	基準値：未実施
	眺望デッキ、休憩所の設置（単位：基）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	基準値：未実施
	御大師周辺総合案内看板の設置（単位：基）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	基準値：未実施
成果指標	栗山公園利用者（単位：人）	2,747	0	0	0	0	0	0	0	0	0基準値：H25
	自然教育施設利用者（単位：人）	10,097	0	0	0	0	0	0	0	0	0基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	御大師山周辺の魅力及び利便性、安全性の向上を図る
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	御大師山周辺の魅力及び利便性・安全性の向上ができ、町での実施が妥当である
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	計画的な環境整備により、魅力及び利便性、安全性の向上が図れる
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	社会資本整備総合交付金事業を活用し
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	御大師山周辺の魅力及び利便性、安全性の向上を図るため公平性は欠けていない

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	新規事業の為なし
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	御大師山周辺の環境整備と利便性向上を図るため、散策路・施設等の計画的な改修・整備に向け、関係団体等との協議を行い、計画通りに進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
163	御大師山周辺ガイドブックの作成と施設の利活用を促進します。	充実	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	周辺ガイドブックの作成（単位：回）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	基準値：未実施
	関係団体連絡会議開催（単位：回）	0	1	1	2	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	栗山公園利用者（単位：人）	2,747	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
	自然教育施設利用者（単位：人）	10,097	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項 目	判断基準
必 要 性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	御大師山の周辺環境、関連施設情報を効果的に発信することにより、町内外の利用促進及び利用環境の向上を図る。
妥 当 性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	御大師山周辺ガイドブックを作成し、散策路・周辺施設の利活用の促進が図れるため妥当である
有 効 性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	民間団体や各課連携し事業を進める
効 率 性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	利用促進及び利用環境の向上が図れる
公 平 性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	町民及び町外来訪者の御大師山散策の利便性向上が図られる

項 目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	新規事業の為なし
課題・問題点	－
改善策	－

【総合評価】

区 分	評価内容・指示事項
1 次 評 価	1. 計画通りに進める
	御大師山周辺の環境整備と利便性向上を図るため、散策路等のルート設定及びガイドブック等の作成に向け、関係団体等との協議を行い、計画通りに進めること。
2 次 評 価	1. 計画通りに進める
	1次評価と同様
外 部 評 価	
最 終 評 価	1. 計画通りに進める
	2次評価と同様